

はじめに・チョットひと言

『歩いてきた道をふりかえる・・・』

片岡義男さんはハワイ生まれの小説家です。彼の随筆集「日本語の外へ。筑摩書房」のなかで、第一次湾岸戦争勃発時に書いたエッセイが掲載されています。そこにこの戦争について「この戦争はアメリカが自分達の築いてきた生き方（文中では way of life と表現しています）をアラブの国に押し付けようとしている」と書かれています。そして、「アメリカは自分達の way of life を世界に押し付ける前に、先住民族から略奪することによって築いてきた生き方が本当に正しいのかどうか検証すべきである」と続けています。

一つの国家に限らず小さな社会や会社などでも、また個人であっても、ある判断を下しておこした行動についてある時点でふりかえてその行動が正しかったのかどうか検証する必要があります。ところが、現実にはふりかえる余裕（時間）がなかったり、判断を下した時の責任の所在が不明確であったりして検証されないことがほとんどです。誤った判断や間違った行動が修正されないとどんどん過ちが蓄積されます。一つの大きな事故の背後にはちょっとした小さな事故が 30 存在しており、その背後にはさらに 300 のミスがかくれているという医療事故の構造においても、初期の段階でミスの原因を修正できていない結果が大きな事故を生み出しています。

12 月です。1 年をふりかえり自分のやってきた事、所属している部門での業務、病院での医療のあり方等、各自で検証してみましょう。今回の医療安全たよりは、医事部長の中村さんにハウレンソウの職場栽培について書いていただきました。

《記 小川健二》

医療安全だより《第 12 号》

— 医事部より —

発行 平成 17 年 12 月 16 日
医療安全管理委員会

職場菜園のススメ

医事部長 中村 栄

医療の質や安全を確保するために、組織や職場に家庭菜園ならぬ、「職場菜園」をススメたい。この職場菜園で育てるのは、当然のことながら「ハウレンソウ」の栽培である。

ここでいう“ハウレンソウ”とは、報告・連絡・相談のことである。とある病院長がその就任挨拶で突然「私はポパイになる」と言ったそう。虚を衝かれた職員に対して、組織にとっていかにハウレンソウが重要であるかを説き「諸君が新鮮な“ハウレンソウ”をモリモリ食べさせてくれたら、私はポパイになってどんどん元気になります」と訓示したという。当然のことながら、その後、この病院は職場が明るくなり、職員の活気もでて、

大きく業績を伸ばしたという。

さて、栄養価の高いホウレンソウを作るには、それなりの手間ヒマをかけなければならない。まず、種子（人材）をよく選び、日当たり（待遇やポスト）のいい所で、こまめに水（人間関係）や肥料（給料）をやりながら芽の育成に努めなければならない。そして芽が出たら、ひと株ひと株、育ち方に合わせて水や肥料をやる。育ちが悪いときは、思い切って場所（適材適所）を変えることも必要となる。

さんせい土壤

たとえ、適切な水や肥料があっても、さんせい土壤では、立派なホウレンソウは育ちにくい。この土壤で育ったホウレンソウは、病気に対する抵抗力が弱くすぐ感染してしまう。これを「イエスマン病」という。この病気の主な症状は「上の言うことは無批判にハイハイと下に伝えるが、下からの批判や否定情報は上に伝えない」という他覚所見を呈する。さらに「イヤな情報やコマッタ情報は、ありのままの姿でタイムリーに伝わらない」といった重篤な合併症をも併発する。このような症状に侵された土を賛成土壤という。酸性土壤はほうれん草を枯らしてしまうが、賛成土壤は組織を枯らしてしまう。

究極の三角関係

ホウレンソウは人間の身体の機能でいえば、眼、口、耳に相当する。書類で提出される「報告」は眼、横の「連絡」は口頭が多いことから口、人の話を聞く「相談」は耳、ということになる。この報・連・相は、常に三位一体でなければならない。どれか一つでも欠けると、組織内のコミュニケーションは崩れてしまい、組織がセクト主義や利己主義に陥ってしまう。つまり、究極な三角関係といえる。

それでは、報・連・相のうちそれぞれ一つが抜けた場合を考えてみよう。まずホウ（報告）が抜けると「レンソウ（連想）」になってしまう。その結果、受け手は勝手に「連想」を働かして誤った判断をしてしまう。つぎに「レン（連絡）」が抜けると「ホウソウ（放送）」になる。横の連絡のない一方的な「放送」になってしまい組織内のコミュニケーションが崩れてしまうのである。最後に「ソウ（相談）」が抜けると「ホウレン」になるのだが、ハテ困った。これに見合う語呂が見つからない。辞書を調べても「鳳輦（ほうれん）（鳳輦をつけた輿。天皇の乗り物）」しか載っていない。相談が抜けると天皇の神輿になっては誠に畏れ多い。困り果てて「南無妙法蓮華經。ナムミョウ ホウレン ゲキョウ…」とお題目を唱える。「ン？ これだ」という訳で、ソウが抜けると「お題目（建て前）」ばかりで心の通わない組織となってしまうのである。

医療安全はもとより、病院組織にとって、その基盤となるのがホウレンソウである。健全な経営基盤構築のためにも、組織に「職場菜園」をしっかりと根付かせるのが急務である。

余談ながら、職場菜園の収穫期には「職前・職後にホウレンソウ」を是非ススメたい。